

議長定例記者会見 会見録

日時：平成28年1月8日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の発言事項

新年を迎えての挨拶

2 発表事項

みえ現場 de 県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について
第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について

3 質疑項目

みえ現場de県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について
伊勢志摩サミットに関する議会の取り組みについて

みえ現場de県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について
新年を迎えての挨拶について

みえ現場de県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について
第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について

参議院議員選挙について

衆議院議員及び県議会議員の定数について

内閣総理大臣等の伊勢神宮参拝の随行について

伊勢志摩サミットに関する議会の取り組みについて

1 冒頭の発言事項

新年を迎えての挨拶

(議長) 新年、明けましておめでとうございます。昨年は、皆様方には大変お世話になりましてありがとうございました。今年も引き続きよろしく願い申し上げます。まず、私の方から、新年を迎えまして、少しご挨拶を申し上げます。

年末年始でございますが、私の場合は、例年12月末ですね、伊勢市は観光協会が神様にお餅を奉獻しようということで、餅つきを外宮の境内で、勾玉池の舞台でやります。それのお手伝いということで、よいしょ、よいしょと、行政関係の方とか、観光関係の方とかいろんな方と一緒にさせていただきまして、その時ついた餅を年越し、年末からお正月にかけて、11時くらいから参拝客に振る舞うんですね。そのボランティア、お手伝いにお邪魔させていただきます。そうやって配っている途中で年が変わるということで、それまでは「こ

れは御利益がある餅ですよ。」と言いながら配るんですが、年が変わった瞬間から「おめでとうございます。」という形で配らせていただきます。そして、その後、かがり火がある中を外宮さんの方に歩いて行って参拝するんですが、その時の参拝客の多い、少ないで、今年はちょっと少ないんじゃないかなとか、そんなことを思います。それから、1日、2日、3日、私の場合はレポートを持っているんな方に、今、議会はこんな課題があるんですよとか、皆さんどうですかとか聞きに歩くんですが、圧倒的に多いのは、サミット大変ですね、サミットはどうなってるんですか、そんな話が多いですね。4日には商工会議所の名刺交換会と言いますか、そこでも伊勢市の場合はですね、圧倒的にサミット、サミット、サミットでございました。そして、5日に総理と閣僚の方々がお越しになって、宇治山田駅でお出迎えをさせていただいて、外宮で一緒に参拝をさせていただいて、サミットの成功と日本の平和、それをしっかりと神様をお願いをさせていただいたところでございます。

本県では、今申し上げましたように、本当に県民の皆さんの関心が高い伊勢志摩サミットがいよいよ5月に開催されます。このサミットを一過性に終わらせることなく、開催後の地域活性化もぜひ念頭に置いて、伊勢志摩だけでなく三重県全体に反映できるように、そういうことをしていくことが大事ななところがございます。また、万全の安全対策を講じて、国内はもとより海外からも一人でも多くの皆さんが来県していただけるよう期待をしているところでございます。

県議会といたしましても、昨年12月22日に「伊勢志摩サミット三重県議会議員協議会」の主催で「伊勢志摩サミット議員フォーラム」を開催いたしました。外務省の滝崎伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局長により「伊勢志摩サミットの全県的な機運醸成に向けて」と題する講演をいただいたところでございます。たくさんの方々にお越しいただきました。今後も、同協議会での活動に加え、所管の常任委員会などでしっかりと調査・審議を行いまして、県内の関係者とともに一致団結して、オール三重県で、サミットの成功に向けて支援を行ってまいりたいなと思っているところでございます。

本県議会におきましては、定例会が1月18日に開会し、通年議会がスタートするところでございます。本年も、県民の皆さんの負託に応えるべく、議員の皆さんとともに、県民福祉の向上と県勢の進展にしっかりと力を尽くしてまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いしたいと思っております。

以上で、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。

なお、本年最初の記者会見でございますので、副議長からもご挨拶をお願いしたいと思います。

(副議長)あらためまして、新年、明けましておめでとうございます。昨年は、皆様方には大変お世話になりました。今年も引き続きよろしくお願い申し上げます。私の方からも、新年を迎えまして、少しご挨拶を申し上げたいと思います。

年末年始、副議長という立場の公式的な業務がなかったわけでごさいます、議員としては例年どおりの行事への参加をさせていただきました。しかし、家庭的なことは、昨年は忙しくて、とても顧みることができなくてですね、あらためて年末年始の時間的空間というのを感じたわけであります。例えばですけど、餅つきであったり、おせち料理であったりというようなことが家族で、家族といっても私は10人の家族がおりますので少し規模が大きいんですけども、おせち料理の仕方とか、昆布巻きの巻き方なども、やっぱり実感するとですね、議会としての活動もさることながら、家庭的なことを家で孫や家族と一緒にするというのは、非常にいい時間をいただいたなと思います。特に新年は外孫も帰ってきますので、私の両親と一緒に住んでおりますので、両親からはひ孫にあたりますが、それを含めると合計18名なんですね。一部屋に18名いるとですね、どんなことが起きるかということは、皆さん方も分かっていたと思いますように、大人も子どももおりますので大変な様子がかえらるわけであります。そのうちの一人ということで、そういう時のいろんな会話が、地域のことやら、お餅の食べ方やらを含めましてですね、子どもたちにとって非常にいい機会の正月であったかなと、このように喜ぶところでございます。今年も丙申ということでございまして、前にもどこかの場所で申し上げたんですけども、「さる」というのは「申」で、人偏を書くと「伸」びるということで、伸びる年にしていただければなと思ってございまして、県民、県議会、いろいろと伸びていただければ、躍進する年になって欲しいなという思いでございます。

先ほど議長からも話がありましたように、今年も5月の伊勢志摩サミットに尽きると思います。もちろん、もう既に何回も申し上げますように、一過性にとどまらずということで、開催後も県内全域の地域活性化につながるような取り組みが必要だということで、議会の方でもしっかりと議員同士でも研鑽し、また議論を深めながら、私は広聴広報会議の責任者でもありますので、そういう意味からも発信していく必要があるかなと思っております。いろんな意味で、今年1年、皆様方にも引き続きお世話になりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

2 発表事項

みえ現場de県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について

(議長) それでは発表事項に入らせていただきます。みえ現場de県議会「鳥獣

害に強い地域づくり」の開催について発表いたします。具体的な内容につきましては、広聴広報会議座長である中森副議長から説明させていただきます。

(副議長) それでは、私の方から、「みえ現場de県議会」の開催につきまして、ご説明いたします。お手元の資料をご覧くださいと思います。

「第2回みえ現場de県議会」ということで、年度から言うと第2回なのですが、通算ですと11回目になります、こうやって外で、現場ですということとは。ストーリーであったり、形式は従来どおりでございますが、テーマにつきましては、今回「鳥獣害に強い地域づくり」をテーマにさせていただいて、2月5日、金曜日に、松阪市にあります松阪市嬉野ふるさと会館で開催する予定としてございます。

言うまでもございませんが、開催趣旨にも書いておりますとおり、鳥獣害による被害は、経済的被害や森林生態系への被害のみならず、営農・林業経営意欲の減退や耕作放棄地の増加をもたらす一因ともなっており、地域そのものの衰退に直結する懸案事項であることから、鳥獣害の現状や課題、対策等についてのご意見を直接お聞きするということでございます。お呼びする方は、鳥獣害対策等に直接関わっていただいている団体、関係者の方々、そして、お手元にあるチラシのとおり、本日から1月22日まで公募する一般の方との意見交換を行う予定としております。もちろん会議は公開とさせていただき、傍聴も可能となっております。ぜひ、報道機関の皆様におかれましては、事前の情報発信や当日の取材につきまして、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(議長) 次に、第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について、発表させていただきます。

今年度、これが最終回となる「議員勉強会」については、皆様のお手元に配付しました資料の5頁のとおり、1月18日、月曜日、午後1時から、全員協議会室において、「地方創生と三重大学の役割」と題して、講師に三重大学学長の駒田美弘氏をお招きして開催する予定です。

地方創生については、本県議会においても、本年度、「人口減少対策調査特別委員会」や「地方創生に関する政策討論会議」を設置し、知事へ提言を行うなど様々な活動を行ってきたところです。また、地方創生を進めていくにおきまして、大学と企業等との協働による魅力ある就職先の創出や、地域が求める人材の養成など、地元の大学の役割が大いに期待されており、三重大学は、「地域人材の育成と若者を地域に留め置く機能の強化」などを戦略として掲げ、積極的に地方創生に取り組んでいることから、お話をお伺いしたいということになりました。ぜひ、今回の勉強会を通じて、地元の大学がどのように地域と

関わり、今後の地方創生にどう取り組んでいくのかについて理解を深め、県の地方創生という政策課題を考える一助にしたいと思っているところがございます。

以上、発表事項とさせていただきます。

3 質疑応答

みえ現場de県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について

(質問)「みえ現場 de 県議会」ですが、参加者の方で「鳥獣害対策等に関わる方」というのがありますが、具体的にどのような方ですか。

(副議長)いろいろな方々おられますけど、ひとつには捕獲、駆除をされている、例えば猟友会等ですか、そういう方々ですね。それから、地域、集落、自治会ですけれども、そこでも地域で獣害対策委員会とか組織として取り組まれている方。さらには、業というのか、農林水産業ですけどね、そういう営農組合とか、森林組合の方。さらには獣肉というか、ジビエといいますか、そういう利活用をされている関係者の方。あとは研究機関とか、有識者ということとなります。

(質問)そのメンバーについては既に決まっているんですか。

(副議長)今打診しているところでございますので、ちょっとまだ発表には至りませんが、内諾程度の状況でございます。

伊勢志摩サミットに関する議会の取り組みについて

(質問)年頭の抱負の内容についてお尋ねしたいんですが、サミットの影響を伊勢志摩だけでなく県内全域に広げていきたいということで述べられたと思うんですが、県議会として、議長として、それに向けてどういう努力ができるかというところを具体的によろしいですか。

(議長)議員協議会ではですね、いろいろな会派の方から早く動こうじゃないかという声は非常に、圧力というんですか、思いとして随分ございましたので、そういう皆さんの思いをしっかりと活かしていくというのが我々正副議長の役割かなというふうに思っております。それで、年末ですね、21日に閉会して22日に議員協議会としてのフォーラムをさせていただきました。最初は心配したんですが、100人寄るんやろうかと思ったのが250人近くお越しをいただきましたので、ひとつの機運の醸成ができたんじゃないかなというふうに思っております。今日からあと139日ですね。もう年が変わりましたので、

秒読みみたいな思いで、サミット局の方で具体的にいろんなことが出てくるといふふうに思いますので、まずは議員全員が周囲の方々、地域でしっかりとこのサミットをPRしていただくというのがひとつ。それから、先ほども申し上げましたように、やはり心配の部分があります。年末には意見書も出させていただきまして、国の方へ届けさせていただけましたけれども、やはりテロ対策だとかいった部分も含めまして、地域の住民の皆さんに影響が出るのであればなるべく早い目に情報を発信するとか、そういった意味で議員全体として、県民の皆さんの目線、生活にどう影響が出るかということもしっかりとチェックをしていきたいなというふうに思っております。そんな思いで、全体で取り組みたいなという思いでございます。

みえ現場de県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について

(質問)「みえ現場 de 県議会」の一般公募っていうのは、これはどんな人をイメージしてるんですか。

(副議長)イメージというのは、もしかすると、地域の、地元の方から、委員会でもなければ組合員でもなければ、本当に困っている人達が想定されますし、それから各関係団体といっても、なかなか立場的には組織の発言となってしまうので、フリーで発言される方がおられたらなとか、NPOとかそういうような組織の方がおられるとありがたいなと、こんな感じです。

(質問)実際に被害を受けているような人っていうイメージですか。

(副議長)地域性にもよるんですけども、自己防衛されている方と、あきらめというか、言い方が悪いですけども、もうどうしようもなくてですね、栽培・生産を縮小したり、場所を変えたりすることを余儀なくされている方もおられたり、したくても逆にできなかつたり、防除のための設備が手に負えないというか、維持管理すらできないというような、いわゆる高齢化に伴いですね、設置するときにはよかったんだけど、もう維持管理もできないというような方々もおられると聞いています。やはり防衛しきれないとなってくると、長期的には針葉樹より広葉樹みたいな話になってきたりすると、10年後、20年後の先になってきますので、たちまちじゃあどうするのみたいな話があって、といって猟友会の方もいろいろと限界があるかなというところが今大きな問題かなと、そこをうまく何とか行政と地域と連携できることはないかなとか、先進事例があれば共有していただいてそれをうまくやると。網で取るとか、罠とかいろいろやり方もあるんでしょうけれども、追い払いとか別のこともあるかなと。情報交流の場としながら、いい対策の例を見出したいなという趣旨です。

- 第二県政記者クラブも含めてどうぞ -

新年を迎えての挨拶について

(質問)議長は、この定例会見が主催なのか共催なのかどちらでお考えですか。

(議長)共催ですね。

(質問)共催なんですね。だとすれば、年頭に当たってのさっきのお言葉、紙芝居か絵日記のような、年末年始こう過ごされたとかいうことは、知事自身も自ら知事会見で言われなかったんで、本来ならクラブにある程度この形のものはやらせてほしいぐらいのお話が事前にあってしかるべきだと思うんですけど。なぜならこっちから聞いて初めて答えられるような話なんで、発表ものは別としてですよ、今回そういうお話はされたんですか。

(議長)ご挨拶ということで、年頭の。

(質問)ご挨拶そのものも、共催ならば、クラブがそれを受けるか受けないかは当然協議でということですね。

(議長)年頭のご挨拶をさせていただいたということです。

(質問)いや、だから、年頭の挨拶にしてもですよ、今回、年頭の挨拶を最初にしますんでっていうのを、事前にはクラブにお話があったんですか。何やってもいいっていう話じゃないんですよ、定例会見は。時間も限られているし、逆に言ったら、議会側でやられるいろんな施策とかそういうものについて、記者がある程度確認させていただいて、県民の負託を受けた記者がですね。議員とはまた別の立場で。そういう場なんで、個人的な絵日記的なものっていうのは本来必要ないわけですよ。それも受ける、受けないっていうのは、ある程度共催ならば記者クラブに判断があるわけです。これはもともと議長の定例会見を100代議長の岩名さんの時に記者クラブからご提案させていただいてやられたんで、そういうことを含めて申し上げますけど。議会から定例会見やりたっていう形でなったわけじゃないんです。あなたもその時議員だったから当然その経緯はご存じだとは思いますが。お答えなければそれはそれでいいですけど。

(議長)冒頭の挨拶をさせていただいたということで。

(質問) その繰り返しならもう別にいいです。そこで議論は深まらないんで。

(議長) 本当に1年皆さんにお世話になりますので、ご挨拶をさせていただきました。

みえ現場de県議会「鳥獣害に強い地域づくり」の開催について

(質問) 発表項目なんですけど、「みえ現場 de 県議会」のところで、嬉野っていうのを選ばれているのはなぜなんですか。全体に持ち回りで、ある程度バランスで、この前は名張でやられたんで、今度は中勢部分でっていうふうなそういう地域の区分けで嬉野なんですか。

(副議長) 場所のお話しをいただきましたが、広聴広報会議でテーマを決める話がありました。複数出てきまして、でも二つに絞るということで決まりました。二つに決まるとですね、じゃあ場所はどこがいいかねということが相談されまして、第1回目はそういうテーマにふさわしい地域で、これまでやっていないということで、名張で、近大高専でということが決まりました。獣害対策についても、北勢がいいのか、東紀州がいいのか、伊賀がいいのかと。伊賀は既に1回やっていますので、じゃあ中勢ということで、議論の中で松阪地域には、そういうような獣害に対する影響の大きい地域もあるというふうに委員から発言がありましたので、じゃあ松阪がいいねと。松阪がいいねとなると場所ですね、交通の便とかを考えると、いい場所が嬉野ということが決まりました。そんな感じです。

(質問) メディアの目というか、県民の目といってもいいんですけど、本来獣害対策であるならば、一番県内で被害を被っているのは、北勢地域のいなべ市であるとか、亀山なんか京都から山が繋がっているんで、猿の被害とか多いじゃないですか。あと東紀州ですよ。まして去年熊の問題で、いなべはかなり注目されてある程度それが獣害云々というのに結びついているんで、本来的にはそういうところでやられる方が、逆に、獣害に対しての理解が深まるとか、そういう意味の場としてふさわしいっていう、そういう意見はなかったんですか。

(副議長) 直接の意見はなかったですけども、関係団体が必ずしもその地域の関係団体に限らず、もしかすると地域外からも関係団体に来ていただくと。伊賀地域でいろいろな取り組みをやってますよとか、そういう方々もおられまして、別に嬉野へ来ていただいてもいいですよということとなってございまして。必ずしも地域だけの、狭い場所の方々のみが寄ってということではござい

ませんので。会場が嬉野ですので、もしかしたらその地域の近くの方も来られますけれども、地域外の方も可能性はできるだけ広くしたいと考えておりました、今、検討しているところでございますので。直接のお話はなかったです。

(質問)でも交通の便で言えば津でやればいいだけの話なんで、一応真ん中で全部集まるから。ある程度、地域でやるっていうことは、この前、名張でやった18歳位を対象とした現場 de 県議会にしてもそうですけど、別にそれは、その地域でやるってことが多分意味があったと思うんですよ。高専の関係があったんで。それからいくと、今回だって、いなべでやるっていうのは一つの手だったと思うんですけども。まあなんせ被害が大きいっていうのと、それはいなべであろうが、東紀州の人も伊賀の人も当然行くと思いますんで。するとその注目されている地域っていうのが、熱が冷めないうちにやった方が、効果的じゃないですか。まあ、いいです。答えは別にいらないです。

第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(質問)この議員勉強会、三重大が地方創生に取り組みられているからって、それはそれで三重大というふうに決められたのはわかりますが、行政と大学の誘致の関係っていうのはもうここ30年近くずっと全国的になっててですね、今、大学と市町村というか地方のまちづくり云々とか、その辺の関係っていうのは議長はどういうふうに捉えられているんですか。

(議長)今まであまりまちづくりとかそういったところに、大学が絡んでくるというか、研究されているっていうのは私自身あまりちょっと記憶がなかったんですけども、三重大は、文科省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」の採択を受けた、そういうところに手を挙げていく、あるいは皇學館大学も確かまちづくりの部署があったと思うんですが、そういった形で積極的に研究をされている、動いているということを経験に入ると、地域とつながっていくということは非常に素晴らしいことだというふうに思います。三重大の先生でいくつかの学校へ入って、研究をされて、一緒になって地域づくりをされている先生も確かみえたと思いますので、その方の話を聞きましたが非常にすごく学問的な部分と、それから若い学生さんたちと一緒に地域に入っていく、またそれを受けて行政が立体的な企画をしていくということで、非常に素晴らしいことだなというふうに私は思っております。

(質問)冒頭に議長が、大学がこういう地域の行政に関わってくるっていうのはあまりなかったっておっしゃいましたけど、30年近く前にブームがあって、全国的に大学誘致っていうのが地方であったんですよ。三重県内でも、鈴鹿国

際大であるとか、あるいは皇學館であるとか、名張学舎作られましたよね。それが結局公費を使って用地もあてがって、やってっただけ、結局それが学生が集まらないとかいうことで撤退されてって、今は第2ラウンドなんですね。そのことは当然ご存じだと思うんですけど、そこからいってまた大学誘致ブームとか、あるいは大学へのテコ入れっていう形の中で、行政のお金が使われてとなってくることが、第1次で撤退した部分の、その反省か検証もないままってこともあるかもしれないし、その辺についてどうお考えですかっていうことを聞きたかったんです。

(議長) 誘致活動というのも一つの大事な部分かと思いますが、大学で研究されている研究内容と、地域が今いろいろと現実に悩んでいる、特に地方創生あるいは少子高齢化なんかは具体的にどの自治体も非常に苦しんでいる部分だと思います。そういった学問と一致していく、そういったところと連携していくということにつきましては、非常にどんどんとそういったところにも、公費を投入していく必要があるんじゃないかなというふうに私は思います。

(質問) 研究内容によっては公費投入してもそれはそれで可という話ですか。

(議長) そうですね。公費の量にはよりますけどね。額によると思いますけど。

(質問) 公費の量ってのは何ですか。

(議長) 費用といいますか、総額によりますけど。

(質問) どのくらい注げばいいと思うんですか。

(議長) それはその部分の中身によるというふうに思いますけれども。

(質問) 例えば県予算の、一般会計の1パーセントは大学関係に振れとか、そういう目標はおありなんですか。

(議長) それは今持っておりませんが、県というよりは、各市町の部分を含めて申し上げたところです。

(質問) 要は、今のところそこまでの具体的な考えはないってことですね。普通予算っていうのは、だいたい枠で考えるじゃないですか。それからいったら、県予算の1パーセントを注げとか、まあ実際文化施設に使えとかいうのはそう

いうふうに区分けする市町もあるんで。県内はないですけど。そういうのは普通の予算、公費を注いでもいいっていう一つの枠なんで。そういうお考えは今のところ別に、そこまでは考えておられないってことですね。

(議長)そうですね。金額までは考えておりませんね。しかし、そういったところに積極的に入っていくべきだというふうには思っております。

(質問)ただ第1次ブームの時にいろいろ手当てはして、結局撤退していった、逆に地域が沈んでいったところもあるんですけど、その辺のことについて、それも単に大学が来てたくさん若者が増えるっていうのもあったけれども、当然そこで地域研究とかということもテーマとしてあったわけですよ。それがうまくいかなかった部分っていうのはありますんで。皇学館さんにしてもそうですね。そういうのからいくと、今、今度新しく大学関係にテコ入れしようっていうところに、議会としては注文つけることはないんですか。

(議長)今回、三重大の駒田学長のお話しも聞かせていただくなかで、各議員の方からですね、色々感じるご意見も出てくるんじゃないかなという期待をしております。

(質問)要は他人任せってことですね。議長としてのお考えはないってことですね。

(議長)私はそういったチャンスをどんどんと議会としては作ってまいりたいなと思っております。

参議院議員選挙について

(質問)この前、自民党の参院選公認候補者が決まりましたけど、自民党のある程度、各政党の今年の夏の参院選候補者がとりあえずは出揃ったと思うんですけど、この参院選の結果というのは県政にどういう影響を及ぼすと思われますか。

(議長)参院選の結果ですか。

(質問)はい。

(議長)どうですかね。

(質問)例えば、今年の参院選の争点みたいなものをどういうふうにお考えですか。

(議長)参院選の争点ですか。難しい質問ですね。

(質問)難しくたって議員では答えられる質問ですよ。

(議長)議長という立場から言うと、そうなんですネ。

(質問)いや、別にどの政党を推せとか、そういう話しているんじゃないくて、当然、政党は関係なしにテーマっていうのがありますやん。例えば、消費税であるとか、どうのこうのとか。あるいは安保関連法案であるとか。何が争点になると思われますか。そこは政治家としての長い経歴の中から言っていたら結構ですけど。

(議長)やっぱりまさに大きな流れから言いますと、地域が、日本創生会議が発表したようなあのような形で、県と言わず、町と言わず、市と言わず、どの自治体も共通に関わっているのは、頭を悩ませているのは、地方をどう元気にしていくかだと思いますので、その点に県民の皆さんに、あるいは国民の皆さんにどれだけ明確な方向を出していただけるのか、そんなところかなと、私はそんなような感じがします。

(質問)要は、1億総活躍とか、地方創生の部分というのが、今回の参院選である程度問われるだろうということですか。

(議長)そのこともあるでしょうね。

(質問)他には。

(議長)他には、人口問題だとか、あるいは地方自治体の、われわれは地方自治体なので、地方自治体から見て、国のいろんな施策をどう反映していくか。いわゆる国から言われた形だけでいくんじゃないに、独自のそういったものを出せるのか、そんなところかなと。これは選挙とは関係なしにですが。

(質問)どっちかと言うと社会党系、今は党籍はないですけど、そちらの道を歩まれていて、議長の場合はですね。それからいくと、当然今政権は今回の参院選で単独である程度過半数とって、改憲というのを目標にしているわけで

すから、それについての戦いであるとか、そういう話はないんですか。

(議長)今の体制じゃないところというのは、やっぱり確かに改憲阻止に向かって動くんじゃないですかね。

(質問)今の体制でしょ。安倍政権がそういうのを掲げて。

(議長)安倍政権が改憲、それに対して阻止で。

(質問)それは党公約でも言っていますから。

(議長)そうですね。それを阻止しようというグループがあるのは事実ですよ
ね。

(質問)いやいや、だからそれって争点にならないですか。今回の参院選で。

(議長)大きな争点になるかもわかりませんね。

(質問)議長自身はお考えではなかったですか。

(議長)私自身も、それもありますね。

衆議院議員及び県議会議員の定数について

(質問)衆院選ですけど、今有識者の委員会が三重に関して、5人から4人って小選挙区の人数を、区分けはまだ今後やるんでしょうけど、とりあえず定数の部分は1人減という形で、名古屋が1つ増えるという形でなっていて、多分これは動かない話なんですけど、この5から4に1人減ということが県政地図にどう影響して、三重県という立場からいって、1票の格差というのは大事かもしれないですけど、それについて1減になるということについてお考えをお願いします。

(議長)私の場合は、副議長の時もそうだったんですけども、結構、三重県議会で決まった意見書等々を持参して各国会議員の事務所を回るという体験が非常に多いので、これは与野党関係なしに、その時に「お願いします」、「お願いします」と回るわけですけども、そういった立場から考えても、三重県が1減になることについては、非常に残念という思いはしております。

(質問) 逆に人数減ったら、回るところ5カ所から4カ所になるからいいじゃないですか。今のお話で言うと。

(議長) 形だけで回るんやったらね、それでいいんですけども。やはり三重県のことを考えていただく国会議員さんが減るということはちょっと残念ですけどね。

(質問) 残念というだけの話ですか。だから、知事会見をご覧になっているかもしれませんが、知事はある程度1票の格差だけで判ずる部分と、それとそうでない部分があってしかるべきみたいなことをおっしゃっていて、知事はそういうふうにおっしゃったんですけど、議長としてのなんか国政選挙へのお考えというのはないんですか。

(議長) 私の感覚から言うと、今回の定数減というのが、私も三重県の南の方に住んでおりますので特に思うんですけども、やはり人口だけでどんどん決められていくことについては、少しそれでいいのかなという、その程度の思いを持っていますね。最高裁の判例では仕方がないのかもわかりませんが。

(質問) ただ、福井県知事の西川さんのように、比例の定数を増やせば、1票の格差はある程度解消できると。要は小選挙区はいじるなという考えもありますよね。その辺はどうですか。存じ上げない。

(議長) そこまではあんまり考えておりませんが。

(質問) その西川さんが言っておられるのは知っておられますか。

(議長) それは知らなかったですね。すいません。

(質問) 要は、南の方ということは31年の次期県議選で議長のいらっしゃる選挙区も含めて定数減になっていきますけど、今の取り決めでは。ここはある程度やっぱり今のお考えからいくと、おかしいと思われているんですね。

(議長) 人数の少ないところからその代表者が削られていくという、これは致し方ないとは思いますが、ちょっとその辺は残念だなという感じがしますね。なんかいい方法はないんですかね。前は面積按分とかいろいろ考えたことあったんですけどね。

(質問) 31年まで当然議長は議員任期があるわけですけど、議員任期ですよ。議長任期は来年の5月までですよ。この議員任期の間に前回決まった定数減の話、45でしたっけ。51から6減ってですね。その見直しというのは何かお考えなんですか。

(議長) 私自身としては持っておりませんが、あの時のいろんな議論の中でですね、国勢調査等々を見ながら見直していくという、そんな話があったように聞いておりますので、そこら辺は代表者会議の方で、あるいは各議員の皆さんと相談をさせてもらう必要があるんじゃないかなというふうに思いますが。そういう状況になれば。

(質問) 国調結果をのせたら、もっと南は厳しいことになるかもしれないですね。

(議長) そうですね。

(質問) 例えば、北牟婁と南牟婁というのを合区して1というふうになるかもしれないじゃないですか。それでも国調にのせろって、たぶん国調にのせろって言ったら、ある程度、減員が増員されるんじゃないかとか、あるいは現状維持じゃないかという期待を持って言われた議員の方もいると思うんですけど。

(議長) 国調もまだ結果も出ておりませんので。

内閣総理大臣等の伊勢神宮参拝の随行について

(質問) この前の伊勢神宮、内閣参拝のときですけど、ここでは宇治山田で出迎えられて、外宮は行かれて、内宮はご遠慮されたと。

(議長) そうですね。内宮はボーイスカウトやガールスカウト、あるいは神宮司庁の皆さんと一緒にあそこで皆さまをお出迎えをさせていただきました。

(質問) 黄金の右足の調子はどうなんですか。

(議長) 相変わらずです。今またお医者さんと相談をすることになっておりますが。

(質問) この土曜日の民主党、岡田党首の参拝はどのような形にされるんですか。

(議長)これは別件と重なりましたので、ちょっと参加はできないかなというふうに思っております。

(質問)出迎えもされない。

(議長)出迎えは、そうですね、時間がちょうど公務と重なっておりますので、公務というよりか私の公務ですが。

(質問)党派にこだわると、副議長を出すわけにはいかないですけど、ただ副議長という職責からいくと、代理に副議長が行かれてもいいと思うんですけど、それも今回はないんですか。

(議長)今までもそういう形はとっておりませんし。

(質問)でも、野党の時に今まで議長が来られたことがあります。

(議長)そうでしたか。ちょっと覚えがないです。

(質問)今回、県議会からは、野党第1党だけに行かれないということですね。

(議長)ですから、民主党の県議の皆さん方はお出迎えに行かれるんじゃないかなと思いますが。

(質問)民主党県議としても議長は行かれないんですね。

(議長)私は民主党県議ではありませんので。

(質問)新政みえ県議じゃないですか。

(議長)そうですね。

伊勢志摩サミットに関する議会の取り組みについて

(質問)サミットの支援っていうので、もう少し具体的に何かこう議会として何かアクションを起こすような、まだ全然決まっていないですか。こんなこと考えているとか、そういうのがあれば。

(議長) サミットについては、議会の対応というのが2つあって、1つは議員協議会ということで、いくつかやっているんですが、議員協議会の皆さん方には、基本的には様々な具体的なサミット局が提案してきたフォーラム等々も含めまして、そういったものがあつた時に積極的に関わる、あるいは周りの皆さんにもお願いをしていく、そんな形での応援をお願いしたいということが1つ。もう片方は、サミットを運営していくにあたって、住民目線なり、あるいは地域の経済の問題だとか、そういったどう影響してくるかというのを常任委員会等々でしっかりとチェックをしていただくということと、それからサミット後に向けたいろんな提案等々を各議員の皆さん方でやっていただきたいなど、そんな思いを持っておりまして、議会全体としてまた別に何かを企画して、それを後押ししていこうみたいな形の議論はちょっと今のところ正副議長では考えておりません。もうそんな時間がないかなという感じもします。

(質問) その協議会って、今だいたい一枚岩なんですか。もともとは自民さんがああいうものを作りたいと新政みえに正副会長は自民だと話を持っていったときに、それではうちは乗れんという話になって、結局議長が会長に座れているじゃないですか。出だしがそうだから、今そのまま一枚岩で動いているんですか。

(議長) 一枚岩で動いていると私は思っておりますが。

(質問) 中森副議長はいかがですか。

(副議長) 既にこうやって動いていますし、あまりそういうことにこだわるとか、当時のことをとやかに言う時期ではありませんので、今はもう粛々とやるということで。

(以 上) 11時20分 終了